

【学校評価】（別紙「令和6年度学校自己評価」参照）

◇重点目標に対する自己評価

- 1 基本的生活習慣の確立 B
 - ・明るく元気な挨拶の励行、時間厳守、整理整頓に努める。
 - ・情報モラルを身に付けさせ、ICT機器の正しい使い方を指導する。
 - ・交通ルールやマナーの徹底など規範意識の高揚を図る。
 - ・自己管理能力を育み、健康で規則正しい日常生活を実践する。
- 2 基礎学力の確実な定着と専門的な知識・技術の習得 B
 - ・評価方法を工夫するとともに、授業における指導改善に生かしていく。
 - ・情報機器を活用したわかりやすい授業を実践し、生徒個々の学力を高める。
 - ・資格取得や各種コンテスト、競技大会への挑戦をとおり、生徒の実践力を高めるとともに、多くの成功体験から生徒に自信を持たせる。
- 3 ものづくり技術を生かした地域・国際貢献の推進 A
 - ・工業の特色を生かした地域連携・交流を推進し、地域に根ざし信頼される学校づくりに努める。
 - ・福祉教育・人権教育をとおりした地域・国際貢献活動の推進に努める。
- 4 部活動の充実 A
 - ・自主性を高め、より高い目標に果敢にチャレンジする精神を育てる。
 - ・体力の向上と豊かな人間性、さらによりよい人間関係を育成する。

◇評価結果に基づく今後の改善方策等

「基本的生活習慣の確立」について、目標達成率が前年度に比べ、ほとんどの質問において昨年度と同様の割合であったが、一部の質問に対しては昨年度より下降している。1つ目は、欠席・遅刻・早退についてである。年々出席率は減少傾向にあり、遅刻度数は増加傾向にある。これらの原因は様々あるが、基本的生活習慣が確立しておらずすぐ体調を崩してしまったり、生徒一人ひとりの学校に対する意欲が低下していることが考えられる。2つ目は、スマホの扱いについてである。先述した通り、情報モラルの欠如やスマホに依存している生徒が多い。これらについては、更なる指導が求められる。これらのことは、いずれも家庭との連携や、協力あってこそ改善できることである。そのための今後の指導については、熟慮していく必要がある。

「基礎学力の確実な定着と専門的な知識・技術の習得」について、学習決道への取り組み状況は生徒・保護者の意識と教員の意識の溝が大きくなってしまっている。生徒の実態を正確に把握し、実態に沿った指導を重ねていくことでこの溝を埋めていく必要があるのかもしれない。一方、教員は教員自身が授業に対して何らかの改善が必要であると考えていることがわかる。近年、生徒の意識と本校の指導意識の差が開いており、職員もそれに気が付いている。現在は両者の意識の歩み寄りの時期である。

「ものづくり技術を生かした地域・国際貢献の推進」について、多くの活動が実施できた。テクノボランティアでは隣の小中学校9校から、計27点の学校備品などの修理依頼があった。内容は、ボールかごなどのキャスター部分の修理から電子計測器修理までさまざまであった。サイエンススクールやこどもパソコンを用いた出前授業、タイ王国ボランティア交流研修など、ものづくり技術を生かした地域・社会貢献を多数実施できた。また、福祉機器の製作や栃木特別支援学校との交流会など、福祉的な活動も活発に行うことができた。

「部活動の充実」について、「電算機部」は、引き続き地域の小中学校へのプログラミング出前講座など、地域貢献活動に精力的に行っている。「部活動をとおりして幅広い人間関係を構築」については、具体的な数値、結果としては表われていないが、積極的に参加している生徒が80%を超えており、電算機部の「プログラミング出前講座」「サイエンススクール事業」や3年生の課題研究の活動として「巴波川竹あかり事業」、福祉委員会・写真部・電算機部の栃木特別支援学校との交流活動など、地域貢献活動が小学生から大人まで「幅広い人間関係の構築」が図られていると推察される。

生徒数減少、3校統合への動きといった現状を踏まえ、運動部、文化部を問わずに部活動、そして校外・地域との連携活動の方向性をどうするか議論する必要があると思われる。

【学校関係者評価】

◇学校評議員による評価

- (1) 「校内における学校評価結果について」の2点について主に意見をいただき、本校の良い点や改善すべき点など客観的に自校を知ることができた。学校評議員からは下記のような意見があった。
- ・個別指導などのきめ細やかな指導、国際交流の充実など、栃工の高評価に繋がっている。
 - ・生徒の活躍が地域の信頼に結びついている。
- (2) 評価結果に基づく今後の改善方策等
- ・学校全体で生徒のきめ細やかな指導を継続的に行っていく。
 - ・多様な生徒をしっかり支えていくために、根気強く指導を行う。